

長野工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	設計工学Ⅱ
科目基礎情報						
科目番号	0075		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	機械工学科		対象学年	4		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	塚田・吉村・黒崎・柳下「機械設計法」森北出版					
担当教員	北山 光也					
到達目標						
機械を構成する代表的な要素を上げることができ、その働きを説明できる。また、巻掛け伝動装置、クラッチ・ブレーキ、ばね、管などについて強度を中心に設計することができる。これらの内容が身につくことで、学習・教育目標（D-1）、（D-2）の達成とする。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	機械の精度について正しく説明することができる。		機械の精度について説明することができる。		機械の精度について説明することができない。	
評価項目2	ベルトとチェーンによる伝動装置について正しく説明し、設計することができる。		ベルトとチェーンによる伝動装置について説明することができる。		ベルトとチェーンによる伝動装置について説明することができない。	
評価項目3	クラッチ・ブレーキ・爪車について正しく説明し、設計することができる。		クラッチ・ブレーキ・爪車について説明することができる。		クラッチ・ブレーキ・爪車について説明することができない。	
評価項目4	ばねについて正しく説明し、設計することができる。		ばねについて説明することができる。		ばねについて説明することができない。	
評価項目5	管・管継手・弁について正しく説明し、設計することができる。		管・管継手・弁について説明することができる。		管・管継手・弁について説明することができない。	
評価項目6	与えられた課題について、適切に設計、評価することができる。		与えられた課題について、設計、評価することができる。		与えられた課題について、設計、評価することができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	あらゆる機械はねじ、軸受、歯車など様々な機械要素から成立っている。本授業では4年次前期の設計工学Ⅰに引き続き、機械要素の内、巻掛け伝動装置、クラッチ・ブレーキ、ばね、管について学び、それぞれの働きを理解する。さらにその機械要素を具体的に設計できるようにする。					
授業の進め方・方法	・授業方法は講義を中心とし、授業毎に演習問題を課す。					
注意点	<成績評価> 定期試験（70%）、演習・小テスト（30%）の合計100点満点で（D-1）、（D-2）を評価する。ただし各定期試験の重みは同じとする。合計の6割以上を獲得した者をこの科目の合格とする。 <オフィスアワー> 毎週木曜日 16:00～17:00、機械工学科棟2F機構設計準備室ただし、出張等で不在の場合がある。 この時間にとらわれず必要に応じて来室可。 <先修科目・後修科目> 先修科目は設計工学Ⅰ、後修科目は生産システム工学となる。 <備考> なお、本科目は学修単位科目であり、授業時間30時間に加えて、自学自習時間60時間が必要です。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	機械の精度①		精度について説明することができる。 寸法精度について説明することができる。	
		2週	機械の精度②		幾何学的な精度について説明することができる。 表面粗さについて説明することができる。	
		3週	ベルトとチェーンによる伝動①		ベルト・伝動の特徴について説明することができる。 平ベルトによる伝動装置を設計することができる。	
		4週	ベルトとチェーンによる伝動②		Vベルトによる伝動装置を設計することができる。	
		5週	ベルトとチェーンによる伝動③		チェーンによる伝動装置を設計することができる。	
		6週	演習①		設計工学に関する基礎的な問題を解くことができる。	
		7週	理解度の確認			
	4thQ	8週	クラッチ、ブレーキおよびつめ車①		クラッチについて説明することができる。 かみ合いクラッチについて説明することができる。 摩擦クラッチを設計することができる。	
		9週	クラッチ、ブレーキおよびつめ車②		ブレーキについて説明することができる。 ブレーキを設計することができる。 つめおよびつめ車について説明することができる。	
		10週	ばね		ばねの種類について説明することができる。 円筒コイルばねを設計することができる。	
		11週	管、管継手、弁		管の種類と用途について説明することができる。 管を選択をすることができる。 管継手・弁について説明することができる。	
		12週	総合演習①		与えられた課題について、設計、評価することができる。	
		13週	総合演習②		与えられた課題について、設計、評価することができる。	
		14週	総合演習③		与えられた課題について、設計、評価することができる。	
		15週	総合演習④		与えられた課題について、設計、評価することができる。	
		16週	学年末達成度試験			
評価割合						

	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	100
配点	70	30	0	0	0	100